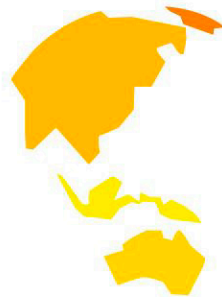




CAGLIERO 11

カ リ エ ロ



151 2021年 7月

サレジオ会宣教ニュース

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



会員、 友人の皆さん、

宣教師とは、神の愛という良い知らせを告げることによって、イエスの友情を人々と分かち合う人です。すべての人に御父の愛を知らせながら(ヨハネ15・15参照)。

逆境の時、友情の価値が前面に表れます。この数か月、インド、ネパール、スリランカ、バングラデシュで、コロナウィルス・パンデミックの第2波の激しさが増す中、コースト、親族、部族、言語の違いにかかわらず、友人同士が命そのものも危険にさらしながら、進んで互いを、家族の大切な人々を世話しようとするのを、私たちは目の当たりにしています。この2か月間に、インドでは100人以上の司祭や修道者が命を落としました。痛み、喪失、死そのものさえ前にしながら、自分の最善を尽くし仕えるよう、キリストにおける友情が一人ひとりを駆り立てます。イエスの言葉は今も真実に響きます：友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。(ヨハネ15・13)。

キリストにおけるまことの友情を分かち合いつづけましょう。

■ 南アジア地域顧問
ビジュ・マイケル神父, SDB

エルサレム — 育まれる友情

アブラハムを父とする3つの宗教は3本の川にたとえられます。エルサレムに来る以前、私は、この3つの川のいずれかから水をひくこの都の住人たちが互いに交わることなく暮らしていると思っていました。観光客や巡礼者がもつこの典型的なイメージは、この都の**複雑な現実**を十分に表していません。宗教への帰属に関わる問題を適正に調べるには長い時間がかかり、また、エルサレムにとどまってその住人の日々の生活を経験する必要があります。

実際、私はエルサレムに数年間暮らし、この大なる3つの川を結ぶ水路があることに気づきました：さまざまなレベルで、友情と協力を促進する対話の試みです。特に、自分自身が体験した2つの重要な機会を思い出します。1つ目は、ある**諸宗教の集い**で、どの宗教の人でも唱えることのできる祈り文を用いて共に祈るために集いました。2つ目は、エルサレムのサレジオ会修道院で企画された「**オープンデー**」。この企画は地域の歴史に重要な役割を果たしてきました。訪問客は何の気後れもなく教会を訪れ、私たちサレジオ会員に宗教にまつわる質問をいろいろしました。エジプトにいたころはこのようなことができるとは、夢にも思いませんでした。

対話の試みは、すぐ目に見える大きな成果を上げることがなく、あまり意味はないと思う人もいるかもしれません。エルサレムは、先述と同様の取り組みで満ちあふれていますが、その実りはまだはっきり見えません。それでも、**ドン・ボスコの言葉**は、続けて前進するよう私たちを勇気づけます。その愛、世話、労働にドン・ボスコが十分報いられていないと感じていた家族や協働者にドン・ボスコは言いました。「忘れないで、主は non secundum fructum, sed secundum laborem 実りにしたがってではなく、ささげられた労働にしたがって報いてくださる。」(メモリエ・ピオグラフィケ第7巻)

そうであれば、このように共に努力することは必要であるし、**対話と友情**を信じる人々と出会い、その具体的な実現を促進するために働くことは、皆にとって大いに建設的なことだと思います。その上で、私たちが願い、自らをささげる未来は、私たちの手よりも、神のみ手のうちにあることを、私たちは決して忘れてはいけません。



エドワル・ナズィフ・ゴブラン

中東管区 MOR (ヨーロッパ) の若いサレジオ会員、エジプト国籍 (アフリカ)、現在、エルサレム (アジア) にて神学課程 3年目。



愛するものを守ろう



タイチ、あなたは「ドン・ボスコ・グリーン・アライアンス」のために働いていますね。グリーン・アライアンスとは何ですか、あなたにとって、その仕事で何に幸せを感じますか？

サレジオ家族は、間違いなく長年にわたって世界各地で環境保護活動をたくさん行ってきました。教皇フランシスコが2015年に、共に暮らす家を大切にすることについて『ラウドト・シ』を公布すると、このエコロジカルな歩みにさらに光が当てられました。ドン・ボスコ・グリーン・アライアンス (DBGA) は、この回勅に触発されて誕生しました。環境保護のために働き積極的に発信する、さまざまなサレジオ共同体の若者たちによる世界的なネットワークです。私たちはネットワークを作るだけではありません：サレジオ家族として一つになってこの分野で働いています。私たちがこのように働くのは、専門家だからではなく、環境問題が私たちの仕える若者、特に貧しく弱い立場の若者たちの人生・生活に深刻な影響を与えているからです。私たちの同伴、共にとどまること、生き方のあかしは、この問題の政治的な側面に過剰に焦点をあてません。私たちは、自分たちの使命 - 教育と福音宣教 - の核心にのっとったアプローチをします。単に環境保護活動を行うというだけでなく、大切なのは若者たちがどれほど関わるかです。若者たちはどのような問題があるか理解する必要があります。私たちは神の造られた世界を世話することの支えとなる霊性について伝え、若者に福音宣教します。結局それは、私たちサレジオのカリスマとアイデンティティーの数多くの表現の一つ、良いキリスト者、誠実な市民となるよう若者を育てる努力の一環なのです。DBGAで働くことは祝福です。若者に仕え、神のより大いなる栄光のために何かをする機会をいただいています。それによってもっと幸せに、ありがたく感じています。

コロナウィルスは、若者、サレジオ家族に何か前向きなものをもたらすでしょうか？

この状況によって私たちは、霊性にしっかり足をつけながら、より人間らしくなれます。健康にもっと配慮し、周りで起きていることや人のニーズにより敏感になります。より実際的になりながらも、より創造力を発揮し、変化や限界を受けとめるようになっていきます。さまざまな制約にもかかわらず人生を意味深く歩み続けるために、互いを、神の現存を必要としていることを、私たちは謙虚に認めます。



“タイチ”こと、
ゼナイダ＝アン・ミランダ

フィリピン、セブ出身。2006年からサレジオ青年運動SYMに関わる。2009年には、フィリピン南管区の管区長館で、さまざまな部門やプロジェクトに参加。最近、**宣教事務局**のボランティア・プログラム責任者の役目を終えた。2018年、ミャンマーでボランティアとして奉仕。第28回総会に参加後、EAO地域を代表し**ドン・ボスコ・グリーン・アライアンス**世界チームのメンバーとして任命された。

ドン・ボスコ・グリーン・アライアンス (DBGA)

フ
ォ
ー
ム

- **DBGA** はサレジオ家族の事業出身の若者たちによる国際的な団体。世界的な環境保護の活動、考察、政策に取り組む。2018年に立ち上げられ、すでに**75か国**の**434団体**がメンバーとなっている。
- **ドン・ボスコ協会**は、若者の教育と全人的成長のために働く国際組織。134か国の2000か所近くで3000以上の事業を運営。

<https://donboscoogreen.org/>



7月
サレジオ
宣教の
祈りの意向

社会における友情

インドにおいて、
カーストの違いによる差別を乗り越えるために。

私たちが、社会的、経済的、政治的な対立の状況において、勇気と情熱をもって、対話と友情を建設する者となれるよう、祈りましょう。

| 教皇フランシスコの祈りの意向 |

アジアの
ために

